

「企画部会」の活動にご参加を

副会長 筑井信明（朝霞市）

数年に及ぶコロナ禍さらにその後の休館という不自由な状態がやっと終わりましたが、友の会もなかなか十分な活動ができていません。特に、数年前までのような毎月の見学会や講演会の開催は難しい状況です。理由としては講演会のテーマを決めたり、見学会の場所選定を行う担当者が少ないことが大きいです。高齢化や趣味の多様化といったことがあるのですが、テレビ番組やYouTubeの賑わいを見ても分かるように、歴史や旅行（地理）、文化という知的なジャンルに関心を持つ人たちは増えています。面白く興味の尽きないものだからでしょう。この中で当博物館や友の会が果たす役割も大きいはずです。



見学会でも新しい発見があります
（先日の『いばらき古墳巡り』）

友の会では、これまで行ってきた会の主要事業である講演会や見学会などの活動に積極的に参加・協力してもらいたいということで、先ごろ

「企画部会」というゆるい組織をつくり、提案してみました。これは会の運営に直接参加するのではなく、気兼ねなく意見を出し合い、まとまるものがあれば講演会や見学会などを実現してみようという「支援スタッフ」的な役割を果たしてもらおうというものです。その最初の会合を10月に行い、いろいろな意見を出してもらいました。印象に残ったのは「歴史に興味がある」「歩いていろいろな場所に行きたい」という意見が多かったことです。関心の範囲は個々それぞれですが、まだまだ知的あるいは身体的にもアクティブな会員が多いのではないかと感じた次第です。

個人的なことになりますが、私は自分の「姓」について（先祖ではなく）、どんなルーツがあるのかという疑問があり気になっていたのですが、先日『新平家物語』（吉川英治）の中で、源頼朝の伊豆挙兵に参加した武士団に筑井次郎義胤という名を発見し、調べてみようと思い立ちました。ここで役に立つのはネットですが、それでもわからないことがある場合は現地に行ったり国会図書館で調べたりということで2カ月くらいの調査のすえ、『吾妻鏡』に書かれた、この義胤なる人物が、鎌倉初期に神奈川県旧津久井郡（現在は相模原市）にある山城・築井城を築いたことで知られていることが分かりました。この武士は中世の相模三浦氏の棟梁である三浦大介義明の弟で三浦半島にある津久井村（築井城のある津久井郡とは別です）を領したことでその名を名乗ったようです。しかし、築井城はその後戦国期まで動静がなく鎌倉時代の発掘遺物もないとのこと。三浦氏も滅んでいきますが、この義胤も歴史からまったく消えてしまいます。また、そもそも相模国最南端の地の武士がなぜ北端の山城を築いたのかについては地元の研究者でも定説がないようで、これも不明です。

氏名と地名は別ですから、人物調べは終え、次に筑井の地名を調べることにしました。すると、これは三浦半島の津久井地区に存在した井戸であるらしいことが『三浦古尋録』という地域の歴史古記録に書かれていることがわかりました。つまり井戸が地名になり、この相模南端の地名を名乗った武士が築いた山城の名がいつか相模北端の地域の名称になったのではないかというのが一応の結論です。

発表することでもないほんのささいな経験ですが、あることを調査していくと思いがけない発見があり、なによりその調査活動自体が面白いことを改めて認識しました。これは私自身が経済的利害や欲望？から開放され、あるいは関わる度合いが大きく減って、まったく自由な行動ができるようになったからだと思います。いわば老年になってから子供のころの純粋な遊びをやっているようなものです。一般論ですが、老年期になるほど人生の幸福感は増すといわれていますが、多分こんなことをいうのでしょうか（ちなみに幸福感は50代が最低ときくと納得する方が多いでしょう）。

どこかへ出かける、あるいは何かを観る、誰かと会う—これは体力と気力があればできることです。同じ趣味の者が集まり、そこに何かひとつのテーマがあれば一緒に活動できます。結果は出なくても構わないと思います。とりあえず、県立博物館という場所があり、友の会という人の輪があるので、新しい活動をしていければと思います。

◆会からのお知らせ◆

新年度＜2024年(令和6)年4月～2025年(令和7年)3月＞の会員更新手続きのお願い

◎コロナ感染症問題などで2021年(令和3年)度から3年間、友の会の年間会費をいただいておりますが、ようやく活動の再開・会員の新規募集ができるようになりました。現会員の皆様にはあらためて継続更新のお手続きの程よろしくお願いたします。

◎この会報に「振替払込用紙」を同封致しましたので、お近くの「ゆうちょ銀行」にて年会費2000円をお振り込みください。1月末までにお支払いいただいた更新会員の方には次回の会報に新しい会員証を同封してお届けいたします。なお、2024年1月より原則として毎週日曜日に開く博物館ロビーの友の会受付や友の会主催講演会などの受付にても承りますが、なるべく振り込みでお願いいたします。新しい年度も友の会の活動にご協力ください。

今後の会の運営について

●博物館ロビーの「友の会受付」について

2024年1月より博物館ロビーの友の会受付業務を再開します。原則として毎週日曜日だけになります。

●これまでお送りしていましたEメール形式でのお知らせは今後も必要に応じてすべての会員にお送りします。この会報が届いていて連絡Eメールがいかない方はく友の会への連絡フォーム>でご連絡ください。

●運営体制について

現在、友の会の会長が空席になっていますが、今年度(来年3月まで)についてはこれまでの役員体制を維持し、事業活動設定方針どおりの運営を行うことにいたします。

●会報の発行について

2023年12月、2024年2月は印刷版を発行します。今号には次年度の友の会会費の振込書を同封し、2024年2月号には会費納付済みの会員への新規会員証を同封いたします。2024年4月以降はWeb会報となります(次号で説明)。

●事業について

講演会、見学会、クラブ活動など諸事業につきましては、会報とホームページに同様の申込フォームを設定します。

◆開催した行事の報告◆

- ・2023(令和5)-10-11(水) 古文書学習会 市民会館おおみや
- ・2023(令和5)-11-08(水) 古文書学習会 市民会館おおみや
- ・2023(令和5)-11-09(木) バス見学会『いばらき古墳巡り』
- ・2023(令和5)-11-17(金) まち歩きクラブ(城南五山と自然教育園) 中止
- ・2023(令和5)-11-18(土) 古代文化を考える会
- ・2023(令和5)-11-25(土) 古道探索倶楽部(中山道に行く第4回)
- ・2023(令和5)-11-29(水) プレミアム講座「埼玉の隠れた偉人 清水卯三郎」

◆今後の予定◆

(それぞれの規定にしたがってご応募ください)

- ・2023(令和5)-12-14(木) 古文書学習会 市民館おおみや・集会室9 『岩井家舊記大集』p101～114予定
- ・2024(令和6)-01-10(水) 古文書学習会 市民会館おおみや・集会室8
- ・2024(令和6)-01-24(水) プレミアム講座 文化財とX線と一稲荷山鉄剣銘文発見あれこれー
- ・2024(令和6)-01-26(金) まち歩きクラブ 鴨川を歩く第1回ー荒川合流点から水判土付近まで
- ・2024(令和6)-02-08(木) 古文書学習会 市民会館おおみや・集会室9
- ・2024(令和6)-02-16(金) まち歩きクラブ 鴨川を歩く第2回ー水判土付近から桶川源流まで
- ・2024(令和6)-03-16(土) 古道探索倶楽部 第40回古道を訪ねてー中山道に行く(第5回)

◆イベント案内◆ (規定にしたがってご応募ください)

(各イベントの延期・中止などの情報はホームページに掲載しますのでご覧ください。)

【区分】	■ 古文書学習会 ■
【概要】	●古文書に興味ある皆さんへ 一大宮の氷川神社元神主岩井家文書『岩井家旧記大集』解説(毎月第2木曜日を予定しておりますが、会場の都合で変更することがあります)
【詳細】	・第15回 令和5年(2023年)12月14日(木)午後1時30分～ 市民会館おおみや・集会室9 『岩井家舊記大集』p101～114予定 ・第16回 令和6年(2024年)01月10日(水)午後1時30分～ 市民会館おおみや・集会室8 ・第17回 令和6年(2024年)02月08日(木)午後1時30分～ 市民会館おおみや・集会室9 A 友の会ホームページより申し込み 連絡欄に「第〇回参加」と書いてください。 B (郵便の場合) ハガキに友の会会員番号・氏名・メールアドレス・住所・電話番号・第〇回学習会参加と明記し、 〒337-0042 さいたま市見沼区南中野1183-10 斉藤文孝宛

【区分】	■ 古道探索倶楽部 ■
【概要】	第40回古道を訪ねて 中山道に行く (第5回)
【日時】	2024年 (令和6年) 3月16日 (土) 集合9時30分～解散15時30分頃
【集合】	JR高崎線 桶川駅改札口周辺 9時30分
【行程】	桶川駅—蔵造の商家—桶川駅府川本陣跡—大雲寺—上木戸址—中山道北本宿碑 —多聞寺—勝林寺—東間浅間神社—馬室原—里塚—鴻巣市産業観光館—勝願寺—鴻巣御殿跡—本陣跡—JR鴻巣駅
【その他】	行距離は約10km、史跡巡りを入れると11kmです。弁当と飲み物は必ず事前にご用意願います。雨具もお忘れなく。
【費用】	資料代等・参加費500円
【申込】	A 友の会ホームページより申し込み B 3月8日までに、普通葉書に氏名・住所・会員番号・電話番号 (ご自宅・携帯とも) を明記して〒330-0073 さいたま市浦和区元町3-32-25-202 寺内慎一宛
【問合せ】	前日まで寺内 090-1545-2848 当日小俣 (おまた) 090-3436-9017

【区分】	■ まち歩きクラブ ■
【内容】	鴨川を歩く 第1回—荒川合流点から水判土付近まで
【概要】	桶川駅付近に源流をもち、大宮台地を南進して彩湖近くで荒川に合流する鴨川 (かもがわ) は、さいたま市近郊の代表的な河川です。今回はこの鴨川を流域の施設や文化財・史跡などを探しながら2回に分けて徒歩で歩いてみます。第1回は合流点から大宮西部の水判土付近までとなります。第2回は水判土付近から桶川の源流までです。【注意】河川付近を含め午前と午後数時間歩きます。特に今回は車の通行が激しい道路が多いので各自ご注意ください。また、寒さ対策も十分にしてください。食事は各自ご用意ください。
【行程】	JR西浦和駅→さくらそう水門と昭和水門→(秋ヶ瀬富士) 鴨川堤桜橋通り公園→桜区役所 (休憩) →千貫樋水郷公園 (休憩・食事予定) →大久保神社→大久保浄水場 (立ち寄りません) →大久保公民館 (休憩) →この地域にある多数の古墳のうち大久保古墳群の①塚山古墳②神明寺古墳を見学 (私有地ですが許可を得ています) →文明堂浦和工場あおぞら工房・ラウンジで休憩後、時間の関係などで (A) ここからバスで大宮駅西口まで帰るコース (B) 他の古墳を見学して水判土地区まで歩くコースに分かれます。他の古墳には③白鍬塚山古墳④権現塚古墳⑤かね山古墳⑥台耕地稲荷塚古墳⑦茶臼塚古墳⑧稲荷塚古墳—などがあります (都合により変更あり)。最後は水判土からバスで大宮駅西口 解散。
【日時】	2024年 (令和6年) 01月26日 (金)
【集合】	午前10時 JR武蔵野線・西浦和駅改札前
【費用】	交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
【申込】	友の会ホームページより申し込み 【問合せ】 090-1990-4807 つくい

【区分】	■ まち歩きクラブ ■
【内容】	鴨川を歩く 第2回—水判土付近から桶川源流まで
【概要】	桶川駅付近に源流をもち、大宮台地を南進して彩湖近くで荒川に合流する鴨川を流域の施設や文化財・史跡などを探しながら2回に分けて徒歩で歩いてみます。第2回は水判土付近から源流の桶川駅付近までになります。時間の関係で調整する可能性もあります。【注意】河川付近を含め午前と午後数時間歩きます。車の通行が激しい道路もありますので各自ご注意ください。また、寒さ対策も十分にしてください。食事は各自ご用意ください。
【行程】	水波田観音 (水判土観音・慈眼寺) →新大宮バイパス→川越線 (埼京線) →番場公園 (休憩) →三橋総合公園 (休憩・昼食) →三貫清水→富士見親水公園 (休憩) →鴨川の起点→鴨川水源の碑 (桶川駅前)
【日時】	2024年 (令和6年) 02月16日 (金)
【集合】	午前10時 JR大宮駅 西口南改札前 集合 (水判土方面バスに乗車予定)
【費用】	交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
【申込】	友の会ホームページより申し込み 【問合せ】 090-1990-4807 つくい

文化財とX線と

—稲荷山鉄剣銘文発見あれこれ—

埼玉古墳群の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣は歴史的な大発見となりました。それはサビが厚く覆う一本の鉄剣からX線によって115文字の金の銘文を浮かび上がらせたのでした。その後も金錯銘鉄剣はX線による調査が何度か実施されています。X線調査という視点から金錯銘鉄剣の調査歴をたどります。

講師の野中さんは、博物館の重要な機能の一つである資料の保存を考える保存科学がご専門。遺跡から発掘される金属や木の保存処理、博物館収蔵資料の保存環境整備に力を注いでこられました。現在は企画・学習支援を担当されています。

(※ 休館中の令和5年度出張講座(7/26)に実施した講座の増補版です)

講師 **野中 仁 氏** 当館主席学芸主幹

日時 令和6年(2024年)1月24日(水) 13時30分～14時30分
(開場：13時)

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 無料

申込方法 (下記①または②でお願いします)

① 友の会ホームページの「申込フォーム」からご応募ください

(申込情報の表示リストからご自分の登録番号をご確認ください)

② 往復はがきに 会員番号・氏名・住所・電話番号・イベント名を明記、返信面にも住所・氏名を記入し、「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。当日は返信ハガキをお持ちください

締切 令和6年(2024年)1月15日(月)必着

定員は従来の150名に戻していますが、応募が定員を超えた場合は締め切り前でも募集を中止する場合があります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会